



カトリック町田教会  
町田市中町3-2-1  
電話 042-722-4504  
FAX 042-722-4512

### いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたのために救い主がお生れになった...

ルカ2・10-11

## すべてを覆う植物

主任司祭 小池 亮太

熱帯雨林を抜けた海辺にあるトルムというマヤの遺跡を訪ねたあと、強い日差しを避けて売店で私たちが休んでいると、突然強い雨が降ってきました。カリブ海の洋上、キューバとメキシコの間に台風があるからだと店員は言いました。  
南北に長いメキシコは、標高が高く、見渡してもサボテンの仲間がほつりほつりとあるだけの灰色の乾燥した荒野が広がる地域があれば、海拔が低く、

多種多様な植物によって構成される熱帯雨林は、いつも同じように見えて、実は想像を超える速さで新陳代謝を繰り返しています。そして、人間が技術の粋を集めて築いたものを、あつと言つ間に飲み込みます。石の建物であつても、蔓や根がその隙間に入り込んで崩し、その上に木々が生長してすべてを覆ってしまうのです。  
熱帯雨林でなくても、人の住まなくなつた街はあつと言つ間に植物によつて覆われてゆきます。福島第一原子力発電所の事故により、帰還困難区域とされた町をバスで進みながら、それを目の当たりにしました。  
東京教会管区司祭大会のプログラムで、道路が封鎖され、これ以上は原子力発電所に近づけないという所まで行き、引き返したバスは、富岡駅の前を通りました。地震で瓦が落ちたままの商店や民家の屋根には草が生えており、家の壁は薄汚れ、庭には草が好き放題に茂っています。庭木は家に覆いかぶさり、街路樹は伸び放題で、道にも玄関先にも落ち葉が降り積もっていました。きれいな家もありましたが、中に入れば動物の糞尿の臭いで気分が悪くなるほどなのだそうです。「帰還できても、荒れ果ててしまった家には、もう住むことはできない」と、案内をしてくれ

た方は言いました。

また、富岡の祭りは多くの人で賑わっていたそうですが、伸び放題の植物を揺らした風が壊れた家の間を吹き抜けるだけで、人の気配の全くない街からはその賑わいを想像することはできませんでした。確かに、この街で人々は喜び、悲しみ、怒り、笑い、愛し、愛されながら生きていたのに、今はもうここには誰もいないのです。

他の場所で、この街に帰れる日を待っている人たちがいなくなつてしまつたら、そして街全体が朽ち果ててしまつたら、マヤ文明と同じように、その場所ですきた人々の昔みの記憶もすべて失われてしまいます。そして、あとには植物が生い茂るだけです。

## 信仰の神秘、ローマの日常

東京教区 門間 直輝

夜明け前のローマの街、身支度を整えて中古の自転車に乗りコレジオ本館のミサを目指して出発すると、すぐに広々としたカプラー広場が目に入り、飛び込んでいきます。広場の奥にはイタリア最高裁判所、右手にはテアトロ・アドリアーノがあり、映画館の先の小さなパールの前では四、五人のタクシー運転手がなにやら立ち話をしています。平日早朝の日常的な風景です。  
ミサ後、サン・ピエトロ大聖堂前の大通りを横切つて、ウルバノ大学に向かいます。

けれど、神は忘れることがない。そこに街があり、そこで生まれ、生き、死んだ人がいたことを神は知っている。街が捨てられ、植物が人の造つたものとの記憶のすべてを覆ってしまう。でも、神はそこで生きた一人ひとりの人生の喜びと悲しみ、すべての行いを知つており、決して忘れることなどない……。色づき始めた秋の山々の向こうに日が落ちて、薄闇に覆われた国道を宿に向かって走るバスの中で、そのようなことを考えていたのです。



になり、これには嬉しくなり  
ます。一杯の珈琲、現地の人  
々とのふれあいは勉強の合間  
の楽しみです。

多くの方々の協力とお祈り  
に支えられ、ローマでの生活  
も一年半が過ぎました。もう  
電車のなかで若者が突然「ア  
レルヤー」と声を上げたり、  
路上でご婦人が「オ・ディオ  
（神よ）」とつぶやいたり  
するのにも少し抵抗力が付き  
ました。はじめはどこに出か  
けても「聖堂のなかにいるよ  
うな」錯覚に陥りました。今  
も人々の教会に対する関心の  
高さや日常生活における信仰  
のとりえ方には驚きます。た  
とえば人々は、ごく自然なこ  
ととして「神」「信仰」「教会」  
についての自分の自由な考え  
を話し、やわらかい心で教会  
と向き合っているように見え  
ます。それはこのローマの地  
で小心者のペトロが殉教を遂  
げたという計り知れない「信  
仰の神秘」に、意識的にせよ  
無意識にせよ、人々が支えら  
れながら生活しているからに  
他ならないのではないかと繰  
返し考える毎日です。

さて、毎年主の降誕を迎え  
るとサン・ピエトロ大聖堂前  
にはその年のプレセピオが展  
示されます。昨年はベツレヘ  
ムの街全体がモチーフとなっ  
たプレセピオが現れ、イタリ

ア人からも好評でした。古く  
から伝わる職業、人々の平凡  
な生活の営みのなかに「主の  
降誕」が訪れたこと、人々の  
「連帯」を示していました。  
今年の主の降誕が町田教会の  
皆さんにとって神様の恵みに  
満ちた時となりますようお祈  
りしています。

クリスマスに寄せて  
カトリック教会との出逢い

運営委員 仁藤 芳栄

運営委員になって、あつと  
いう間に二年目を迎えました。  
最初、運営委員って何をす  
るのか暗中模索状態でお引き受  
けし、町田教会のことを何も  
知らない私にもできるのかと  
思いつつ、先輩方の指導を仰  
ぎながら一年目は運営委員会  
ニュース、二年目は議事録を  
作成しています。

私はカトリックに改宗して  
から二十年位たちます。古い  
仏教徒の家の私とカトリック  
教会との出逢いは、町田教会  
で言うところの「たまごの会」？  
自宅の近くに小さな教会があ  
りました。家の人に手をひか  
れ、始めて教会の門を潜った  
のはほんの小さな頃でした。  
白いカラーに黒い服を着た男  
の人が立っていたのを覚えて  
います。今思えばスーツタンを  
着た神父様だったのですね、  
日曜日にいらっしやいと云わ

れて行く度に綺麗な御絵をも  
らうのが楽しみで、教会って  
遊びに行く所だと思つて通つ  
ていました。そのうちクリス  
マスに招待され、生まれて初  
めて教会でのクリスマススを体  
験しました。大人の人達が大き  
きな声で「主は来ませり」を  
歌っているのを聞き、幼心に  
シユワキマセリってどんな野  
菜なの？と思つていました。

小さな頃身体の弱かった私  
は、近くの聖母病院の小児病  
棟に入院している時、お告げ  
の鐘が鳴ると調理場の近くの  
聖堂にシスターがぞろぞろ入  
つていき跪き台に跪いてお祈  
りをしているのを外から覗い  
ていました。誰もいなくなる  
とシスターのまねをしてチヨ  
コンと跪いてお祈りをしてい  
た、いたずらっ子の私を思い  
出します。

その後すっかり元気になつ  
て、ヴァチカンに憧れてロー  
マに旅立ったのは十六歳の時  
でした。若き日の情熱に想い  
を馳せる。カトリック教会と  
随分関わりがあつたのだなと  
今更ながら思います。カトリ  
ックになつて聖母病院の聖堂  
に再び帰ってきた時、あの時  
のシスターはいないけれど何  
十年の時間の隔たりを超えて  
時が止まったように当時のま  
までした。全世界の人々の幸  
せと平和を願い、子供達に暖

# 傑作 21世紀に向き合う教会

かい優しい心を育み今年も又クリスマスが訪れる。町田教会の皆様から毎年クリスマスにお菓子の提供を頂き、運営委員一同感謝致すと共に、皆様の上に神様の愛が豊かに注がれ、暖かいクリスマスを迎えられますよう心からお祈り申し上げます。

町田教会被災地支援

センターの発足について

事務局長 立木 欣吾

今年の七月、町田教会被災地支援センターが発足しました。

昨年から教会直轄の『災害活動支援グループ』で活動をしていましたが、活動グループで被災地に支援金を送る『災害援助活動』と混同しやすいため、名称を改めました。町田教会被災地支援センターの活動は、主に福島県を中心にを行っています。福島県だけでなく、東京、神奈川、埼玉、千葉を足した面積より広く、町田教会から被災地に赴く際はガソリン代、高速代を教会から支給していただいております。来年からは福島県に限らず、視野を広げて岩手県や宮城県の被災地も活動を行う予定です。被災地での具体的な活動は、お花見等の催しで、被災者にお弁当を配ったり一緒に歌つ

たり、被災者の講演を聞くなど、被災者と直に顔を合わせた活動です。

昨年夏からの一年間の活動で、被災地を七回訪れ、都内での講演会等の参加は六回、参加者数はのべ七十三名にのぼります。

被災地支援センターに活動ルールはありませんが、留意している点があります。

一つは、特定の政治や思想に偏らないこと。原務問題に際しても同様です。特定の政治信条でなければ受け入れられません。参加者は絞られてしまいます。一人でも多くの参加者が被災地を見て、それぞれにいろいろなものを持ち帰ってくださればいいのです。

もう一つは、無理のない支援活動であること。強行スケジュールなら、その回の活動をやめる勇気を持ちたいと思います。仕事や健康を犠牲にしてまでのボランティアは続きません。

支援活動を行った後に参加者にアンケートをとっています。参加して良かったという声もあれば、ボランティアを続けることへの不安や迷いの声もあります。唱歌の『ふるさと』を歌って怒りだした被災者がいたこと、ボランティアから支援を受け続けることに居心地の悪さを感じている

被災者がいるとも聞いたことがあります。土地や屋敷はあってもいつ戻れるともわからない『ふるさと』、ボランティアから一方的に助けを受けることの苦しさ。復興を願って一つになっていた震災直後より現在の方が、被災者の抱える問題も土地や補償、家庭事情、健康問題など複雑・多様化し、大変ななっています。被災した方も私達と同じ狭い日本の中で生きています。私達の隣人です。支援活動を「気の毒な人を助ける」「自己満足に終わらせることのないように、被災者の心からの笑顔に出会える日を祈りながら、

心を込めた活動を今後も目指したいと思えます。

笑顔の種まきのお手伝い

子育て委員 藤波 由香

去る10月27日、台風の影響を受けることなく晴天に恵まれ、町田教会に集う皆様のおかげで無事バザーを開催することが出来ました。多くの献金も集まり賑やかな一日でしたが、皆様は楽しんでいただけたでしょうか？

教会から暫く足が遠退いていた私が、地域ブロック連絡員をお引き受けしたことがきっかけでバザーの実行委員長をさせていただくに至ったわ

ワンポイント聖書



(194)

前島 誠

「ワンポイント聖書」とタイトルに明記しながら、振り返ると、ずい分、長い期間、この欄を占領してしまっただ。そんな思いがしてならない。

当時、日曜日のミサで、いちばん記憶に残っているのは、米軍機の空襲だった。安息日のミサの間くらい、静かにして欲しいのだが、なかなかこちらの注文通りに

はさせてもらえない。空襲警報が発令されると同時に、信者たちは聖堂脇に掘られた防空壕に避難することになった。

司式司祭は祭服のまま、われわれ少年たちは侍者服着用のまま、信者さんたちといっしょに薄暗い壕の中で待機する。それが今でもはつきりと、目に浮かんでくるから面白い。

困ることが一つあった。聖変化の後の空襲だ。信者は避難できる。だが司祭はできない。一人祭壇に残ってミサを続行する。やがて司祭は気付く。侍者の少年が一人、まだ祭壇下に残っていたのだ。「マントー！防空壕に入れ！」だが少年には聞こえない（司祭を一人残して逃げるなどなどできるわけがない）。司祭もそのうちあきらめる。ミサが終わわり、司祭と少年は香部屋で電気ストーブに手をかざしている。これが戦争中の司式司祭と、ミサ答え少年の思い出である。連載はこれで終わります。ご愛読ありがとうございました。

(広報より) 長年にわたる連載 本堂にありがとございました。





けですが、教会の皆様、実行委員の皆様を巻き込んでご迷惑やご心配をおかけしたことと思います。それでも、いつも皆様が笑顔で励ましてくださるので、私は本当に楽しくバザーの準備が出来ました。

バザー便りにも書きましたが、今年のバザーは負担を感じる声や趣旨の問題など様々な理由で中止検討の声もあり、実施するのが当たり前だった昔とは違って来たようでした。教会は祈りの場ではありませんが、バザーなどの教会行事は私達家族にとって大切な思い出でした。自分の納得のいかぬまま中止にしたいなかつた私は、共同体として皆が負担に思うことなく出来ることは何か、今後どんな行事が良いのかを考えるきっかけのバザーにしたいと思い、バザー実行委員長に立候補したわけで

すが、果たして皆様のご意見を伺いながら作業できていましたでしょうか。私達実行委員一同は、バザーに参加する皆様が心地よく過ごすことが出来るよう一生懸命企画しましたが、皆様が笑顔でひとつになるお手伝いができていたら幸いです。改めて、力不足の私を励まし、共にいてくださった町田教会の皆様と実行委員の皆様へ感謝いたします。たくさんの方の笑顔とご支援を本当にありがとうございます。バザーの種がまた笑顔の花を咲かせますように…。

バザー収支報告

収益金	499,137円
(含余剰金1,600円)	
使途	
・外部団体へ寄付	100,260円
・町田教会	
被災地支援センター	200,000円
建設営繕積立金	199,137円

犠牲献金

中高生会

10月6日	13,428円
(ペロニカ苑へ)	
11月3日	9,310円
(ペロニカ苑へ)	

「雷の子」次号編集会議予定

1月26日(日)09時30分

於会議室

信者動静

2013年6～12月

(個人情報のため、削除しています)

**クリスマスと年始のミサ**

★クリスマスのミサ イブ(24日)のミサ前後に ミニコンサートを行います	12月24日(火)	17:00 19:30 22:00
	12月25日(水)	11:00
★年始のミサ	1月1日(水)	00:00 11:00